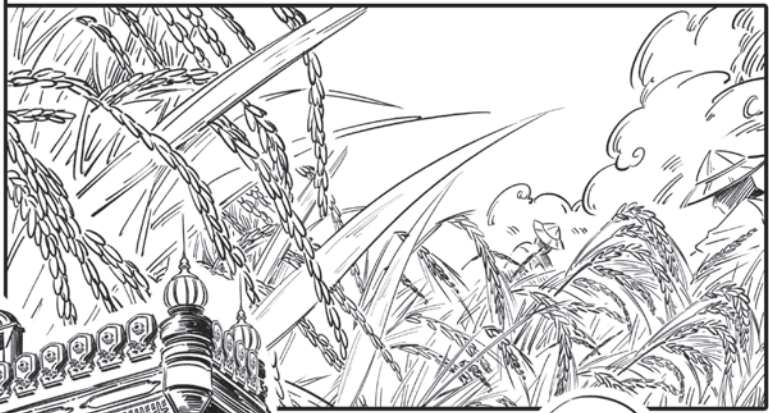


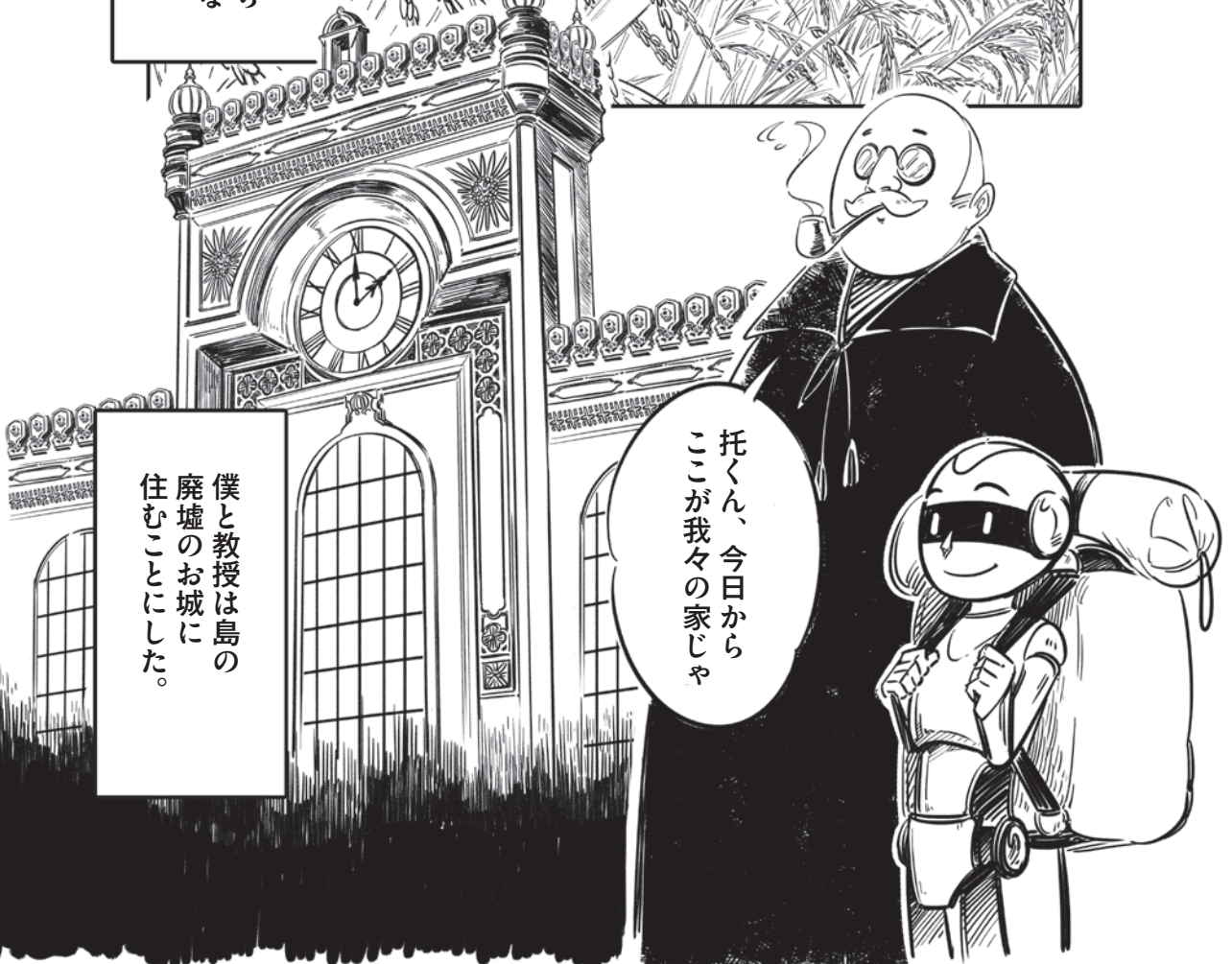
ウナルは美しい  
小島。そこに  
仲睦まじく農民が  
暮らしている。

僕のご主人様である  
ラドス教授は都市から  
遠ざかりここへ静かな  
生活を求めに来了。



僕と教授は島の  
廃墟のお城に  
住むことにした。

托くん、今日から  
ここが我々の家じゃ







托くん、見給え！  
ここの人々がこんな  
たくさん食物をくれて  
歓迎してくれておる！



ワシもお返し  
させてもらおう！

彼らの努力を見て  
感動したのじゃ〜！

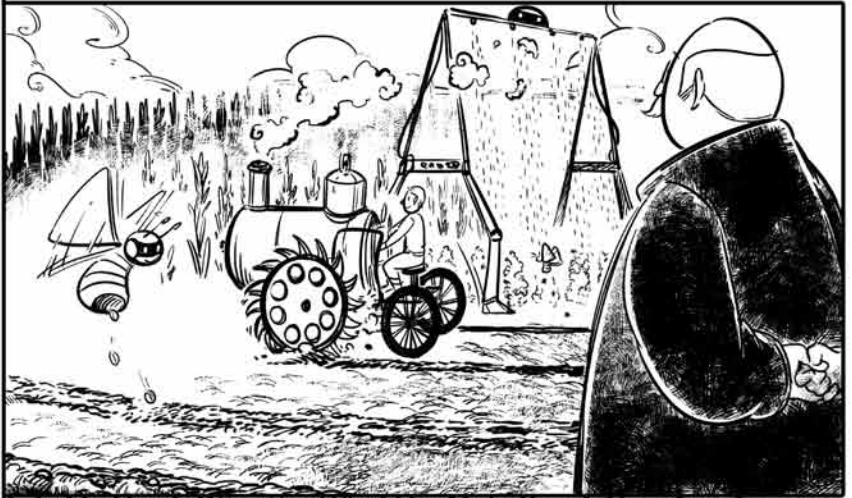
はー！



托くん、見給え。島の  
住民たちは農業と  
牧畜に励んでおるのじゃ！

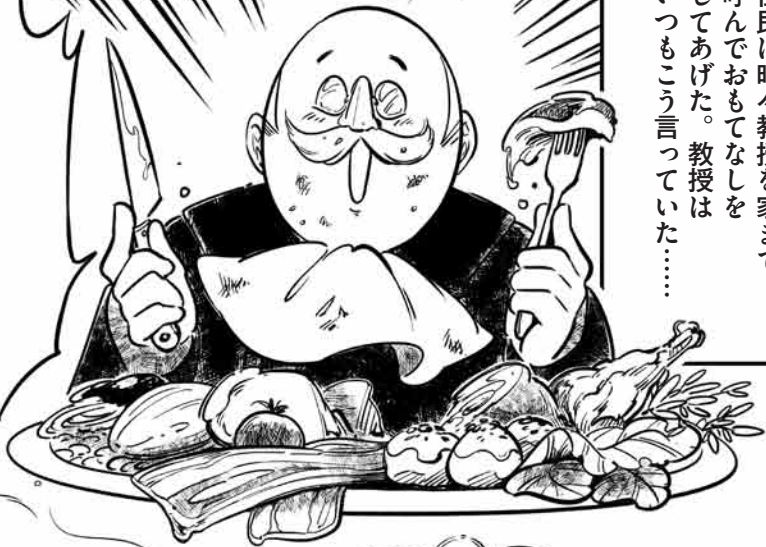


教授は様々な農業用の  
機械を発明した。



住民は時々教授を家まで  
呼んでおもてなしを  
してあげた。教授は  
いつもこう言っていた……

この島の料理は  
一番うまいのじゃ！



島の住民はようやく  
好きなことをする  
時間ができた

しかし、教授は  
だんだん歳を  
取っていく……







托くん、見給え…  
たとえ機械があっても  
耕作する時に島の人々には  
やはりいろいろな不便が  
ある…ワシの任務は、  
まだ達成しておらぬのじゃ…

教授…

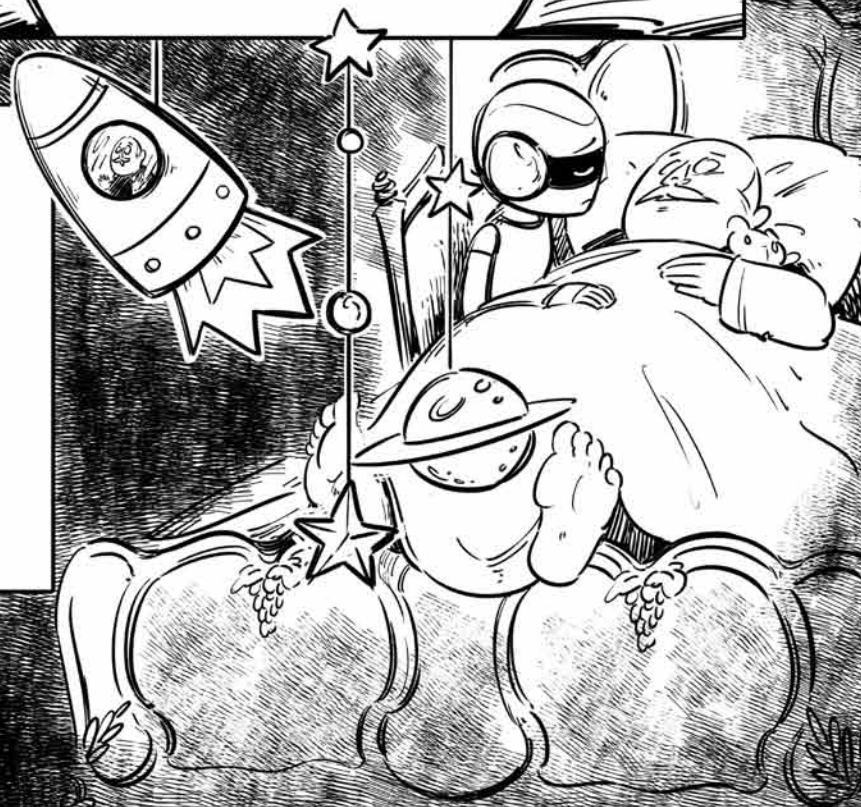


ワシの最も大切な図書館  
はお前にやるぞ。  
中にはワシのすべての  
知識がある。

托くん、ワシが死んだら、  
お前が引き続き島の人々を  
手伝っていくのじゃ…  
ワシは…彼らから…  
莫大な恩恵を…  
受けたのじゃ…



教授は目を閉じて  
この世を去った…。  
教授のロボットとして  
僕は遺言に従い島の人民の  
悩みを解決するのに  
全力を尽くすつもりだ。





鶏肉、牛乳が  
足りない。生産量を  
増やせそう？

いけます。

海外輸出用の  
オリーブオイルが  
足りない！もっと  
オリーブの生産量  
を増やせそう？

はい！

托くん、鶏がもつと  
卵を産めたらいいな！

牛乳を  
搾るのが疲れる！

分かり  
ました。

OK!

大きくて甘い  
みかんができる  
方法はないかな？

スイカが自ら  
トラックまで歩いて  
くれば我々は  
わざわざ運ぶ必要も  
ないよね！

承知  
しました！

托くん、  
助けて！

何とかして！

何とか！

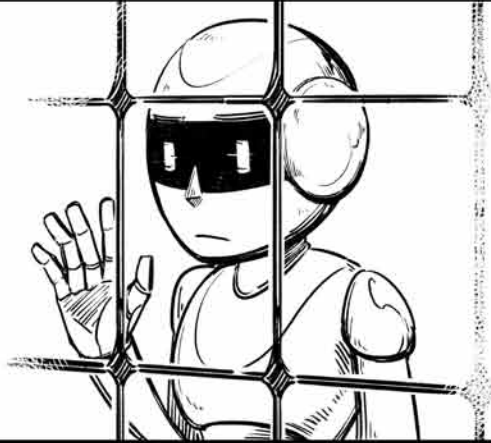
全部お任せ  
ください。





長い時間が経った後で…

教授、あなたが託した  
使命を果たせたと思う。  
島の人々は働かなくても  
大量の収穫ができるよう  
なったから。



人々の生活上の変化は  
教授と僕の予測を遥かに  
越えている…  
でも、どこか間違っている…  
そんな気がしてならない。

まず、この食べ物  
本来の香りと味を  
失っている…



…そして病気になる  
人やそれで亡くなった  
人もいる。



…いつの間にか  
農産物に未知の毒素が  
生じたのだ。





托くん！  
何とかしてよ…

無理です…  
これは教授が残した  
科学知識では  
解決できない問題です。

…科学技術で  
解決できない問題なら…  
じゃあもう魔法にしか  
頼れないかな？

魔法？

そうだよね！  
魔法の力を  
使いましょう！

魔法さえあれば  
問題が解決  
できるに違いない！

西には魔力が強い  
魔女がいるらしい  
ですよ！

托くん！西の魔女を  
探しに行つてきて！

一年後、ようやく  
西の魔女の居場所の  
情報を手に入れた…

島の住民の問題を  
解決すると教授と  
約束したため、魔女を  
探す長い旅に出発した…









誰  
かしら？

こんにちはは托と  
います。ウナルから  
来たロボットです

ロボットなんか  
大嫌いよ！

え？  
なんでよ？

昔から科学と  
魔法が対立  
しているからよ！

まあ、  
ここまで来てくれたし  
お茶でも飲みましょうか

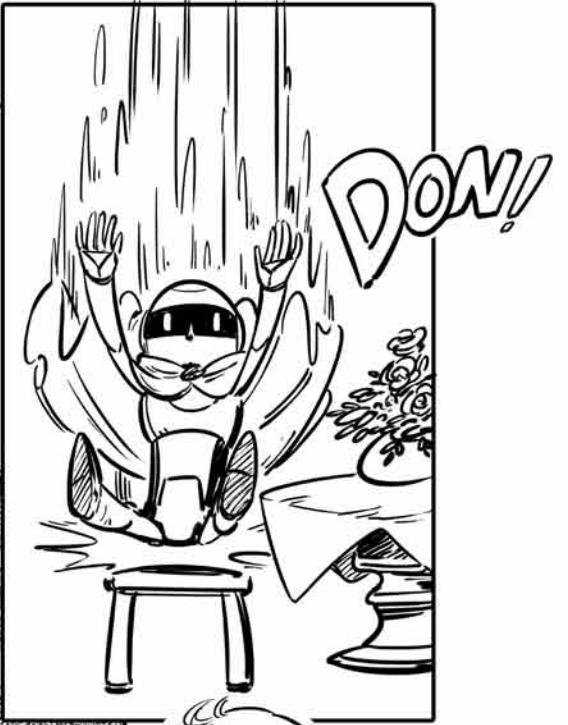
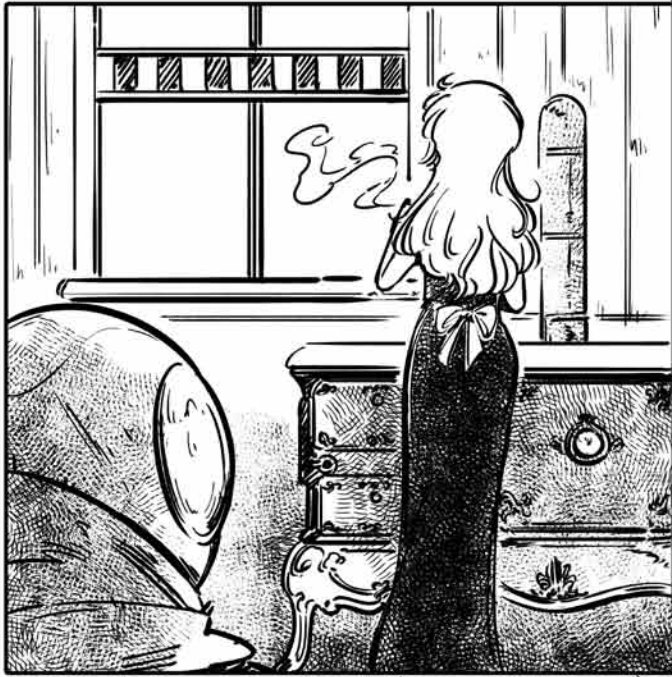
優しく…

ぎやー！

SHDDDDDD

ヒュー





わあ：  
きれいですね！  
…魔女は醜いから  
嫌われるのだと  
思いましたが。



魔女は美しすぎるから  
嫌われるのよ！  
人間があたし達の美貌に  
嫉妬するから、絵本では  
醜く描かれているの！





科学はある程度知識を  
持てば誰でも把握できるのに、  
魔法は生まれつきの才能が  
必要なだけで邪道だと  
言われるし！



科学と魔法が  
対立していると  
言っていましたか？  
何ですか？

あたし、いろんな村、  
都市、国に行ったのだけど  
結局いつも追い出されたの！  
全部科学者のせいだわ！  
あなたのご主人の  
ような人が！

ラドス教授の  
こと？



そうよ！ あんたは？  
ここまで来て何かお願いが  
あるでしょ？ 言っとくけど、  
あたしロボットは助けないわよ！  
まあ、お願いを聞いてから  
きっぱりと断るのは結構  
気持ちいいからね、  
うふふふ！



魔女を見つければ  
殺す国もあるし、  
人から離れてこの山に  
隠居することに  
したの。

魔女って  
大変ですね…





意地悪だな…

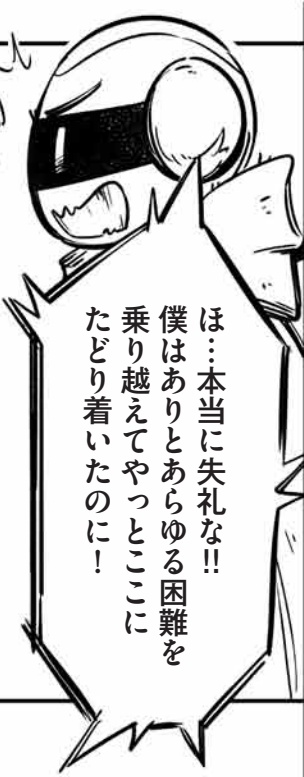
実はこういうこと  
なのです…



だから、彼らが問  
題解決するのに、  
魔女さんを連れて  
帰ってくるよう、  
僕をここまで  
来させたのです。



ありとあらゆる  
困難って？  
さあ、何かヘンテコな  
機械でも使ってやってきたのか  
拜見させてもらおうわ…

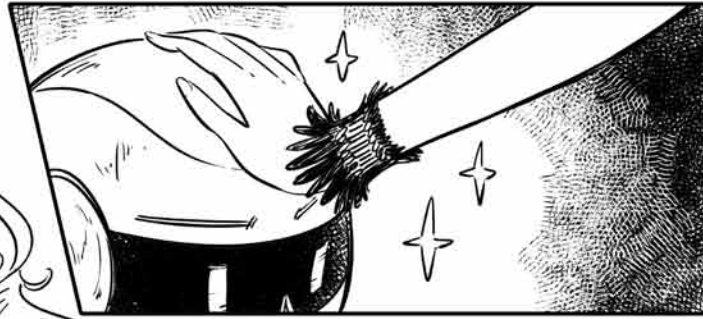


ほ…本当に失礼な!!  
僕はありとあらゆる困難を  
乗り越えてやっとここに  
たどり着いたのに!



あはははは!  
島の住民は何もかも  
あんたに頼りっぱなしで  
本当におかしいわ!





ロボットは  
自分のために  
あるのでは  
ありません。



：地球を半周したの？  
機械を使えば簡単  
じゃない！



もし…もし…  
魔法でも住民を  
助けられなければ…  
誰が教授の生前の  
願いを実現させる  
のでしょうか…？

たとえ僕は  
足しか残って  
いなくてもここに  
来るんです…

お願いします。  
僕はもうここまでしか  
できないから！



…あんな  
壊れかけたのに。



行きましよう!

え?  
どこに?

ウナルよ!  
島の人を  
助けるんでしょ?

あたし感動したわよ!

自分に  
拍手してあげ  
なさい!

ポン!  
PA!  
ポン!

パチ

CLAP!

パチ

CLAP!

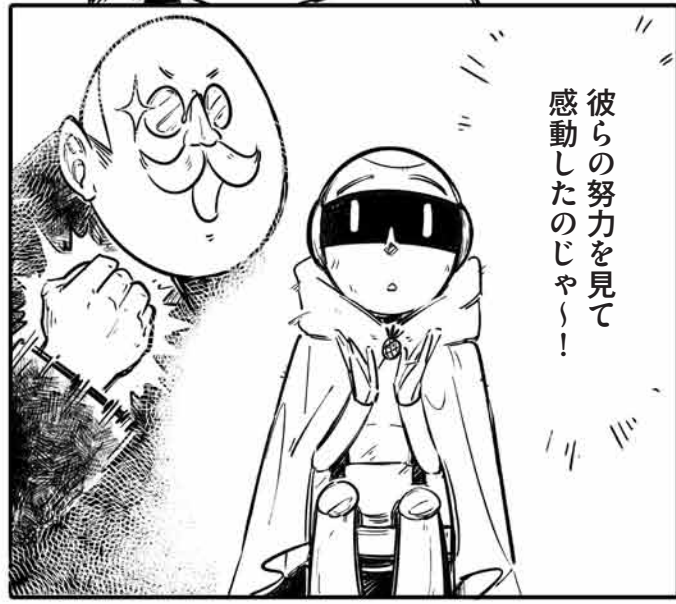
パチ

CLAP!

パチ

CLAP!

彼らの努力を見て  
感動したのじゃ〜!

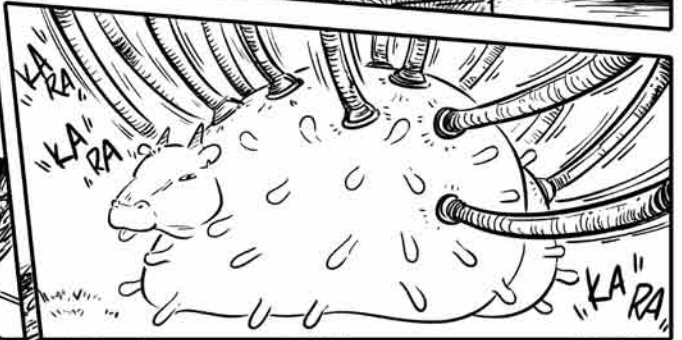
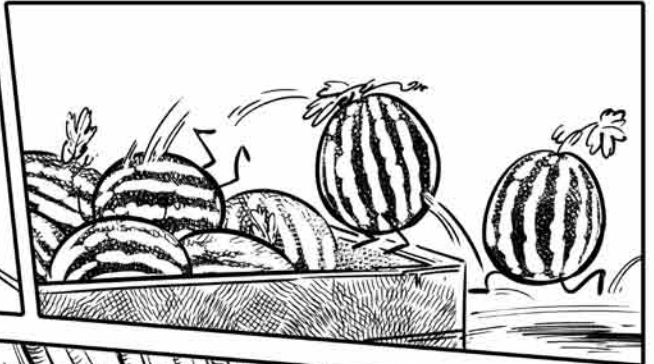






な…！  
な、な、  
なにこれ！







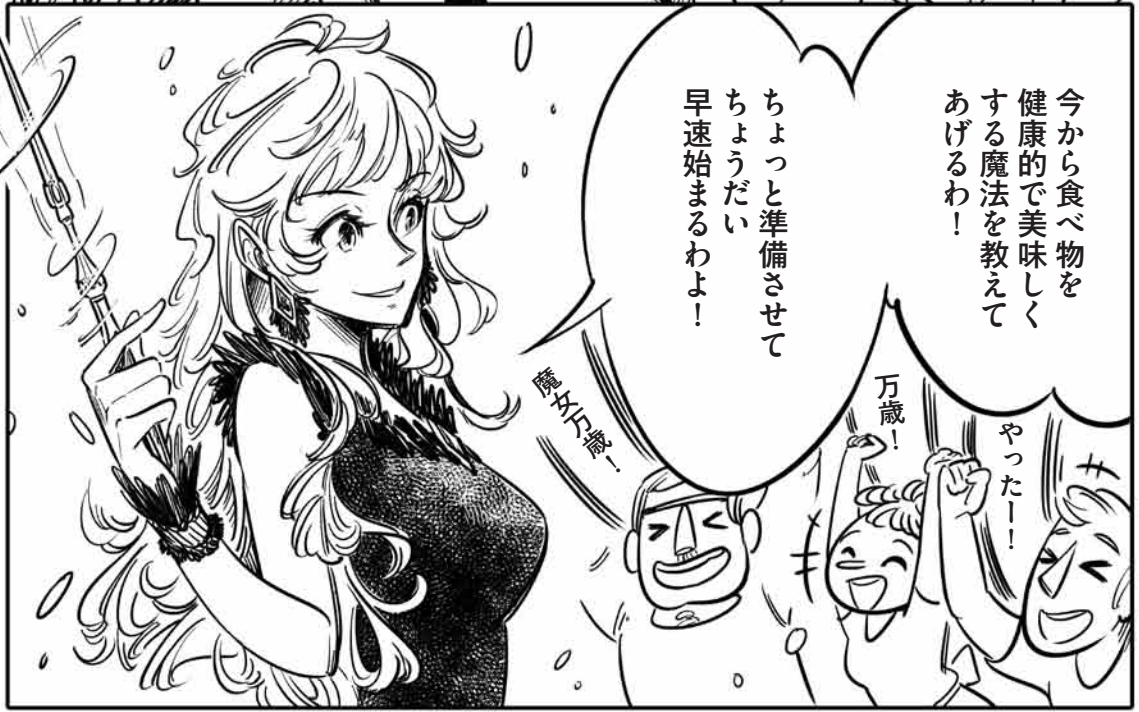






おほほほほ！  
こんなに歓迎されるの  
久しぶりだわ！

こんなに  
盛大なパレードは  
初めてですよ！



今から食べ物  
健康的で美味しく  
する魔法を教えて  
あげるわ！

ちよつと準備させて  
ちようだい  
早速始まるわよ！

標本尺盤一

万歳！

やったー！













魔法で  
できるじゃん？

魔法で  
食べ物の味を戻せば  
いいじゃん！

魔法で  
食べ物を美味しく  
すればいいのに！



馬鹿じゃないの？  
そんなの  
できないわよ？

何で  
できないんだい？  
最もすごい  
魔女だろ？

托くん、  
この人って  
本当に西の  
魔女なの？

そうですよ！  
魔法を使って  
僕を連れて  
ヒューとあつと  
いう間に飛ん  
できたのですよ。



あたしがね、ここに来た  
のは托くんがありとあら  
ゆる困難を乗り越えて、  
あんたたちに魔法を教え  
てっってお願ひしたからよ。  
あんたたちがこんな  
弱い怠け者だなんて  
思ひもよらなかつたわ！

お前こそ  
ニセ魔女！

そうそう！  
嘘つき！





もういい！  
明日帰るわ！

魔女なんて全部  
同じ！ 魔法を  
教えると言っておいて  
私たちを馬鹿にして！

ちよっと  
待ってください！  
島の人々は本当に  
魔女さんのことを  
必要としているのです！



あたしを必要と  
するですって？  
あの態度  
見たでしょ？

食べるのは好きだけど  
働くのは怠ける人達が、  
何もせずにこの土地から  
収穫したいって？  
そんな都合の良いことが  
あるわけないわ。




この人々は  
昔はそうでは  
なかったのです…

分かっているわ。  
あんたが甘やかし  
すぎたの。あんたと  
機械が。








僕はただ教授の  
生前の願いを叶えて  
差し上げたいのです！  
教授の代わりに、この  
土地と人民への感謝の  
気持ちに報いて差し上  
げたいのです。

ラドス教授は  
都市から排除された方です。  
仕事も見つからず暮らし  
さえ立てられず、飢え死に  
寸前にこの島の人々が  
助けてあげて、ここで  
暮らせるようになったのです。



いかにも  
食いしん坊に  
見えるわね…

そうなのです。  
美味しいものを  
食べるのは何よりも  
貴重なことだと思われ  
ていたのです。

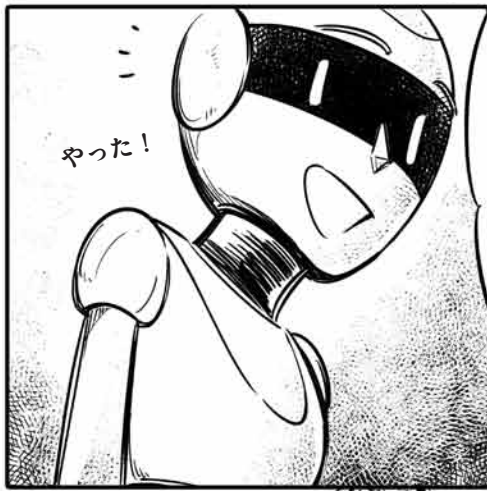




…じゃ 見せて  
あげるわ、魔法を。



民は食を以て  
天と為す。これが  
曾てこの土地の人々の  
生物モットーでした。



…  
…  
やった!

あなたとラドス教授に  
約束するわ!  
この土地の農作物を  
再び元の美味しさに  
戻すわ!



はい!  
僕と他のロボット  
も手伝いますから!







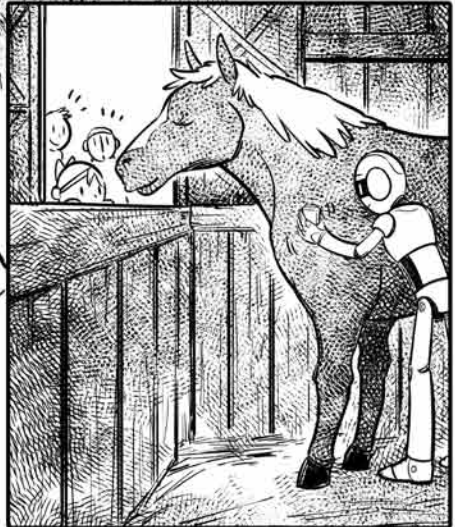
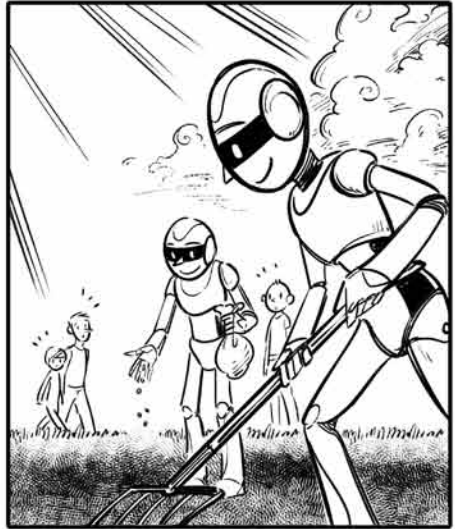
何このロボット  
たち？

科学開発を  
しているのです。  
例えば雌鶏に  
一日100個の卵を  
産ませる薬とか。

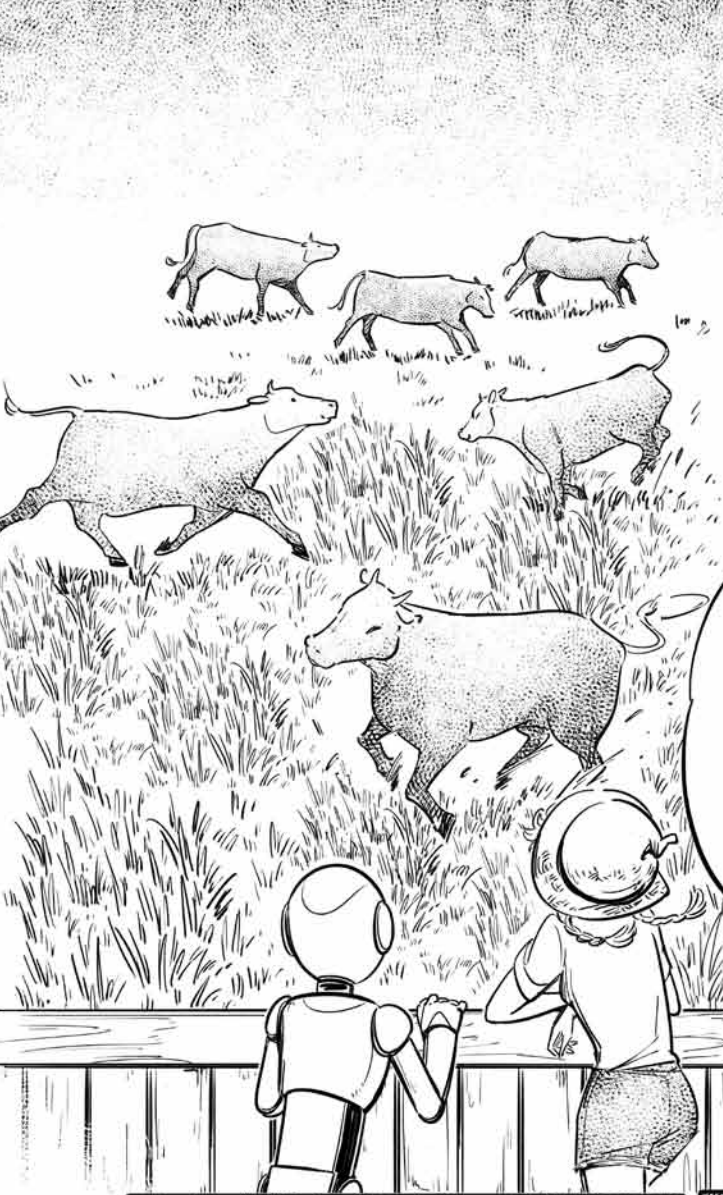
植物由来成分の  
油の代わりに  
合成油の開発とか。

こんなのはいけないわ、  
今すぐ止めてちょうだい、  
これからは体に害を与える  
添加物を使わないの。

ストップ！  
開発中止だ！

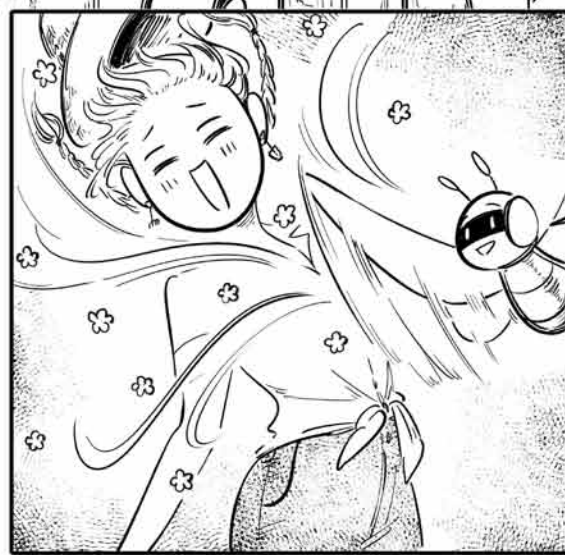






ここが牛の  
養殖場です。

知ってる？  
楽しく生きている牛は  
楽しくなく生きている牛  
より100倍も美味しいのよ？

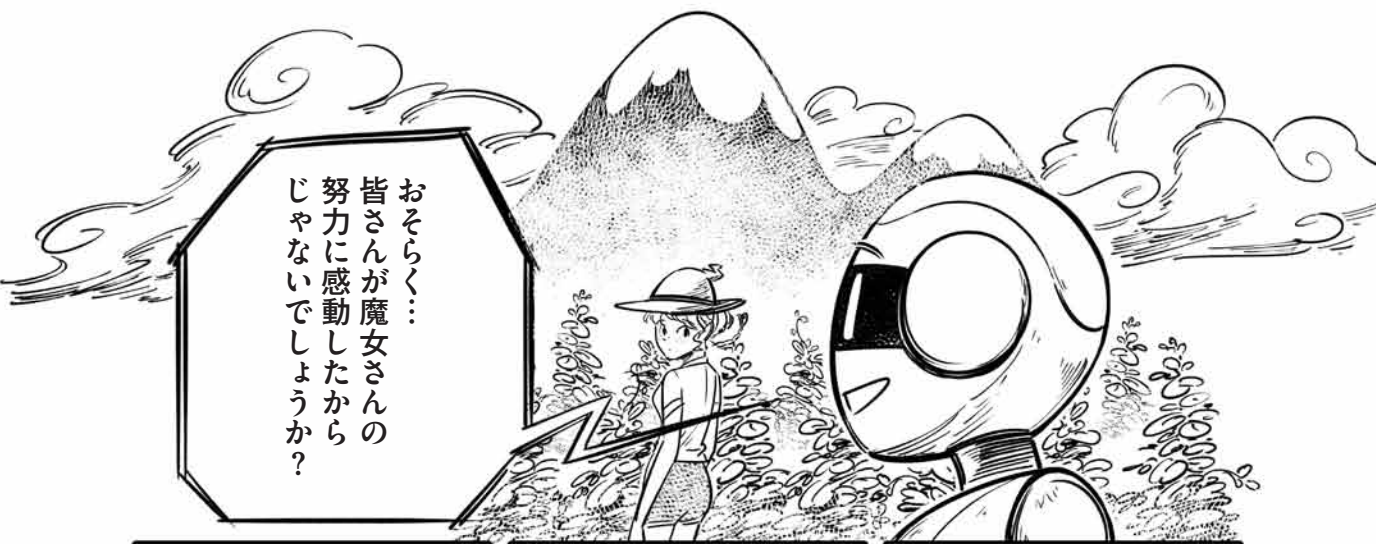


涼ませてあげ  
ますよ！  
お疲れ様です！









おそろく：  
皆さんが魔女さんの  
努力に感動したから  
じゃないでしょうか？



魔女さんも  
自分に拍手して  
下さい。



…あたしだって、  
人を感動させること  
ができるのかしら？



キヤー！ 虫！  
花の葉っぱを食べてる  
し…なんで農薬を  
使わないの？



雑草が稲の栄養分を吸収  
しちゃうので、一緒に雑草を  
むしりましょう。



魔法が効くかどうか  
ちやんと見せるん  
だぞ！ 何をして  
良いか教えてくれ。



健康のためと  
ミツバチのためよ！  
ミツバチを傷つけないわ。  
ミツバチの農作物への  
貢献はあたし達より  
遥かにすごい。

これは家族に代々  
伝わるピーチパイ  
レシピに沿って作った  
のじゃ…ほら、  
焼きたてじゃ。

美味しい！  
こんな美味し  
いもん初めて！

どうやって  
作ったんだい？

う〜ん感動した！  
うますぎ！

どういうこと  
ですか？  
何で食べ物が  
美味しくなった  
のですか？

理由はいろいろ  
あるわ！  
一、オーガニック  
栽培だから  
二、心を込めて手  
入れしたから  
三、努力して得た  
食べ物だから  
正しい方法で植え  
たものにはそれら  
しい味がでるの。

あたしには農作物を  
もつとうまく成長させる  
コツがあるわよ！

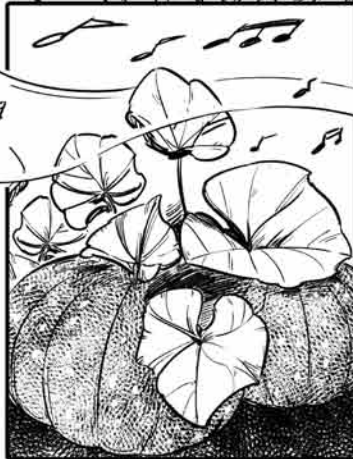
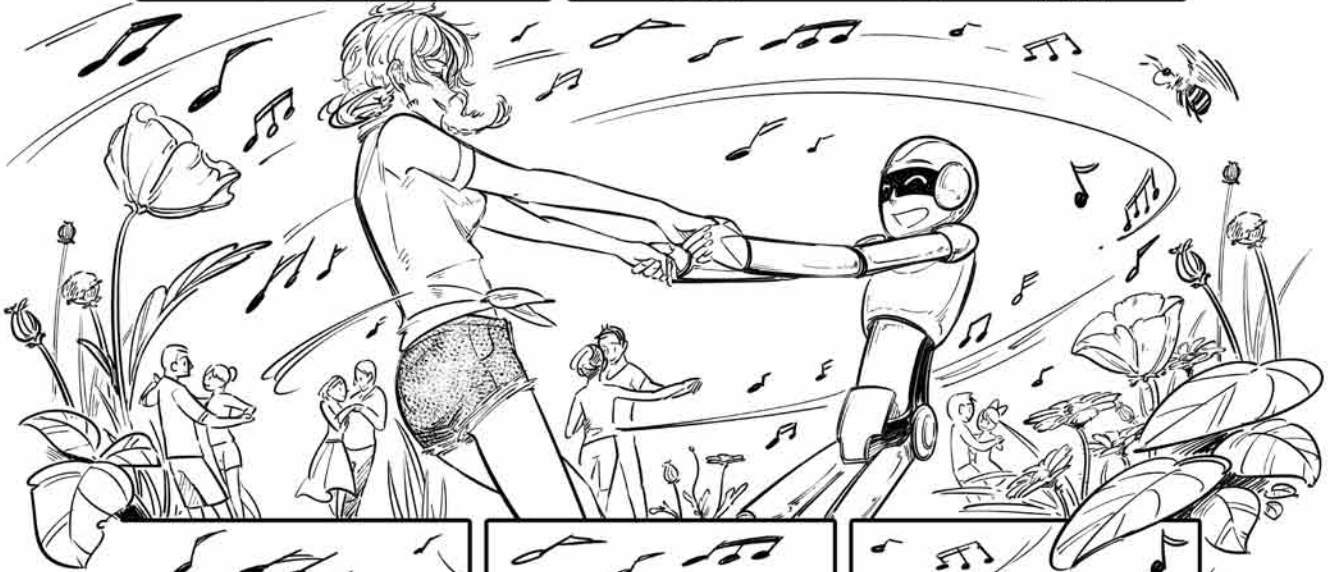
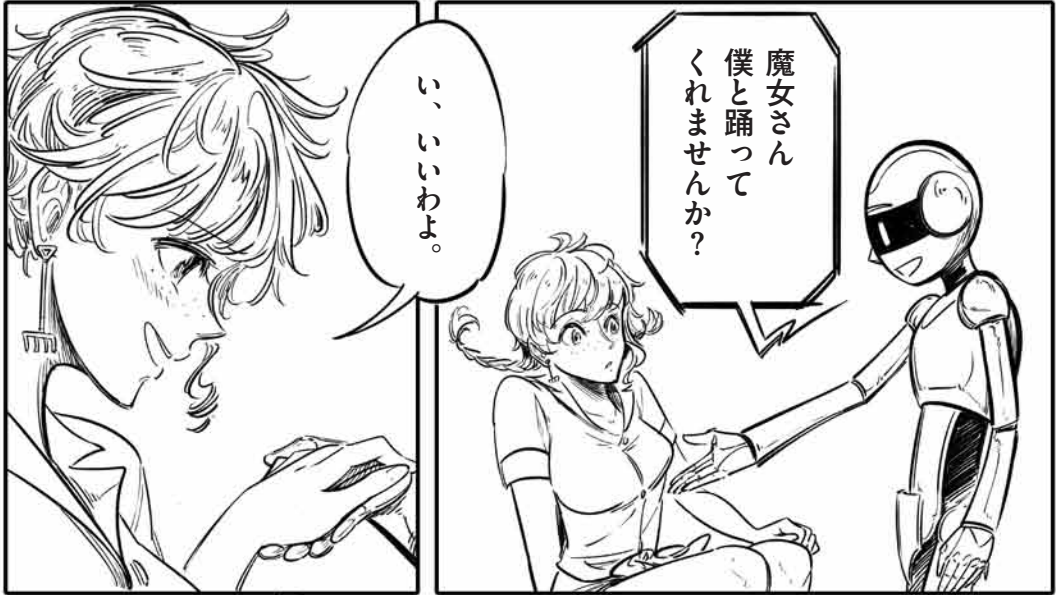
何ですか？



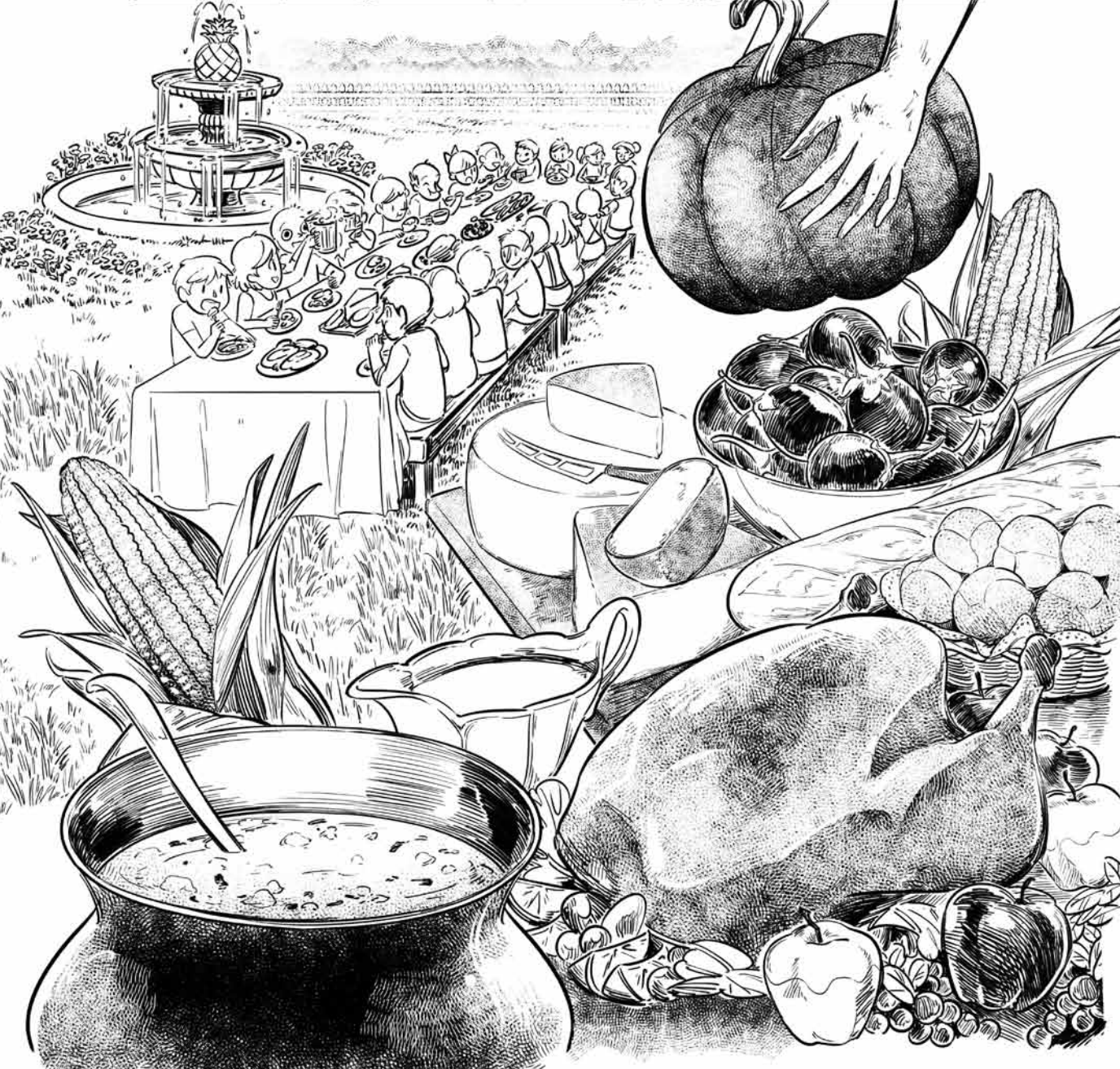
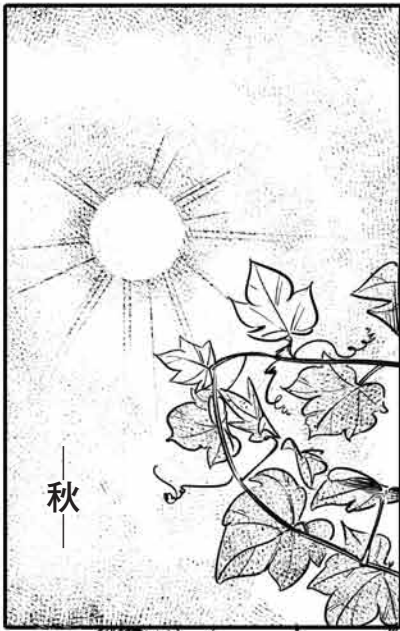














托くん、見て…皆  
魔法を身に付けたね…

あたしの仕事は  
そろそろこれで一段落  
が付いたようね！

やっと分かりました。  
魔法ってこんなに  
素朴なものである  
ことが。ありがとう  
ございます魔女さん。

ちょっと待って  
ください。行って  
しまうのですか？

山に戻らなくちゃ。  
ここにはもうあたしに  
できることはないわ。

いいえ、もう最高の  
謝礼を頂いたわ！  
最初は科学に頼って  
養殖や生産をするべき  
ではないとさえ思っ  
ていたんだけど…

すべて魔女さん  
のおかげですよ。何  
の謝礼ももらわずに離  
れてしまうのですか？

ここに来て初めて、人間が  
バランスよく科学に頼って  
もっと素晴らしい成果が  
出せるってやっと  
分かったわ。





想像もできないほど  
美しい景色…



さあ、  
あ〜んして！

ずどん



そろそろ  
行かなくっちゃ…

魔法の師の  
声に魔法をかける音



う〜ん！  
美味しい！



魔女さ〜ん  
早くおいで！

早く来ないと  
なくなっちゃうぜ〜

美味しいのよ！





幸せ〜!

こんな美味しい  
ご飯初めてだわ!



何?  
行っちゃうの?

ここにいてくれたら  
毎日こんなに美味しい  
料理が食べられますよ!



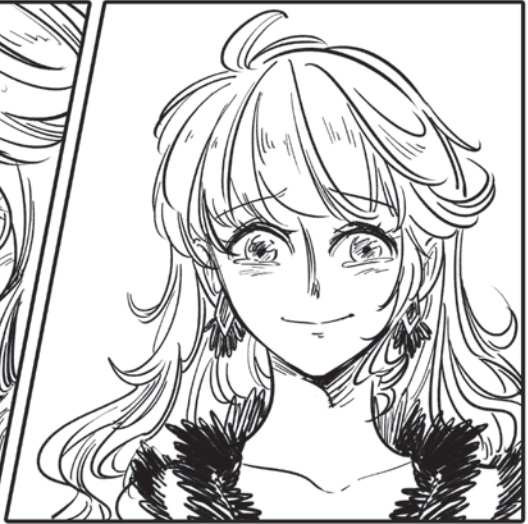
ずっと  
ここに  
いようよ!

そうですよ!

ずっと  
ここに  
いてよ!

もったいない  
じゃないですか?





教授、  
ウナルの地が元に戻りましたよ。  
食べ物も美味しくなりました。  
健康にもいい。  
美味しい食べ物は、  
額に汗して作り出すものなのです。

